

第2分科会 書くこと

ことばを蓄え、ことばを生かす国語教室の創造 ～豊かに書くための指導を通して～

1 研究のねらい

内閣府が平成27年に実施した「青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、中学生のインターネット利用率は80.3%にのぼり、その利用内容として「コミュニケーション」は62.9%と上位に入る状況にあることが明らかになった。「コミュニケーション」の手段として用いられるメールやSNSの普及の一因は、簡単な言葉や絵文字、スタンプなどを活用して手軽に感情を表現できることにある。しかし、一方で、これらの表現は、言語を用いた適切な表現の機会を減少させる一因になっているとも考えられる。延岡市でも同様に、中学生のコミュニケーションの手段として、メールやSNSの使用が広く普及しており、安易な表現のやり取りが見られる。これらのことから、本市においても、生徒に適切な表現の方法を身に付けさせることが喫緊の課題であると言える。

平成29年1月に、本市の中学生を対象に実施した「書くことに関するアンケート」によると、「文章を書くことが好きではない、または得意ではない」と答えた生徒が半数以上(56%)にのぼった。その理由として「何を書いていいか悩む」(44.1%)「書き方がわからない」(21.3%)などが挙げられた。また、教師に対するアンケートでは、教師も書くことの指導を、「難しい」と感じていることが明らかになった。

そのようなことから、まずは、生徒に適切な表現の方法を身に付けさせるための具体的な指導を実践していくことが急務だと言える。県全体の傾向も、語句の意味や表現技法といった基礎的・基本的な事項の定着が十分ではないことから、本県の中学校教育研究会国語部会では、研究主題を「ことばを蓄え、ことばを生かす国語教室の創造」と設定している。そして、身に付けさせたい力を明確にし、学習目標を達成するために必要な「学習用語」や「語彙」を習得・活用する学習活動の工夫に取り組んでいる。

以上のことから、本市では、県の研究主題に迫るため、副題を「豊かに書くための指導を通して」と設定し、「書くこと」の指導について、市内全ての学校で研究実践を行った。副題の「豊かに書く」ための指導の柱として、「適切な表現の方法を身に付けさせる」「言語表現の幅を広げさせる」の二つを設定した。具体的には、教科書の「書く」単元で、作文を書いた後に、書き方トレーニングや思考ツールを用いて豊かに表現する方法を指導する。その後、学習した表現を用いて書き直す指導を行う。これらの活動を通して、適切な表現の方法を身に付けさせるとともに、言語表現の幅を広げさせ、豊かに書く力を身に付けさせたい。そして、さまざまな場に応じた適切な言語表現ができる力を身に付けさせたい。

2 研究の視点

豊かに書くために必要な技能の習得、および活用方法についての学習を、次の二つの視点で行うこととした。

(1) 「書き方トレーニング」の活用

「書き方がわからない」という課題を克服するために、表現スキルを身に付け、活用させるトレーニングを行った。各回10分程度で計3回実施した。

(2) 「思考ツール」の活用

「何を書いてよいか分からない」という課題を克服するためには、素材集めの方法を身に付けさせることが必要である。そこで、「思考ツール」を活用した素材集めや思考の整理のトレーニングを行った。

3 研究の内容

(1) 指導の流れ

① 教科書題材に沿った作文づくり

教科書の学習の流れに沿って、1年生は「作品のよさを表現しよう」、2年生は「いきいきと描き出そう」で作文を書かせた。

② 「書き方トレーニング」と「思考ツール」についての学習

文末表現や比喩表現を取り入れた「書き方トレーニング」と、ウェビングや樹形図などの「思考ツール」についての学習を行った。

③ 自分の作文の推敲

①で書いた作文に、「書き方トレーニング」で学習した表現方法を生かして、自分で推敲をさせた。

(2) 研究の実際

① 教科書題材に沿った作文づくり

教科書題材として、1年生は「作品のよさを表現しよう」2年生は「いきいきと描き出そう」で指導を行った。共通の実態として「比喩表現が使われていない」、「全体として文が短く稚拙」、「表現に幅がない」といった課題が挙げられた。

② 「書き方トレーニング」と「思考ツール」についての学習

ア 「書き方トレーニング」

(ア) 内容に応じた文末表現の練習…… 同じような内容でも文末表現によって微妙に伝わるニュアンスが変わることを学習した。

★ 「明日は晴れる」の文を制限字数内でさまざまな伝え方に書き直す。(トレーニング)

1 断定する伝え方 2 推定する伝え方 3 希望する伝え方 4 疑問の伝え方 5 伝聞の伝え方

★ それぞれの短文の前に理由(「～から」)をつけて、もう一度書く。(トレーニング)

(イ) 豊かな表現・直喩……生き生きとした描写で読み手をひきつけるために、意図的に直喩表現を用いて作文づくりを行った。

★ 次の文章に、例えの表現「～ように」をつけ(10字以上)書き直す。(トレーニング)

例: 「きれいな花」→「白いドレスを着たお姫様のようにきれいな花」

1 「速い車」 2 「お腹の痛み」 3 「君に会えてうれしい」

★ 次の文章に、豊かな表現を加えて書き直す。(トレーニング)

「急な坂を登りきると光る海が見え、大きな入道雲がわき上がっていた。私はワクワクして走りだした。」→「がけのような坂を登りきるときらめく美しい海が見え、綿菓子のような大きな入道雲がゆうゆうと浮かんでいた。私はワクワクして勢いよく走り出した。」

イ 「思考ツール」の活用

(ア) 素材集め(樹形図・ウェビング)…… 2年生の「いきいきと描き出そう」では、短歌の中の言葉からイメージがなかなかふくらまないという実態があったため、思考ツールを用いて発想を広げる練習や、そこから素材を選んでいく練習を行った。

★ 「学校」から思い浮かぶ語を書き、そこからさらに思い浮かぶ語を書いていく。(樹形図)

★ 次の言葉から思いついたことをなるべくたくさん、短い言葉で書く。(トレーニング)

1 「水」について 2 「おもしろい」ことについて 3 「思いやり」について

★ 「思い出」から、連想される言葉をクモの巣(ウェブ)のようにつなぐ。(ウェビング)

(イ) オノマトペ(擬態語)からの連想

★ 次の語から思い浮かぶ内容を簡単な文にして書く。(トレーニング)

1 「キラキラ」 2 「ガラガラ」 3 「ピカピカ」

③ 自分の作文の推敲

②の学習を受けて、改めて①の作文を推敲させ、比喩表現やイメージが広がる描写の工夫に取り組ませた。

(生徒実践) 何も感情がなかった鳥が→マネキンのように何も感情がなかった鳥が

(生徒実践) とても暑い日→太陽がガラガラと照らしている

登場人物の意欲→日差しに負けにくいくらいメラメラと燃えていた。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果(事後アンケートの結果より)

① 書き方や素材集め・思考の整理の方法をドリル形式で学習することを通して、生徒は表現の工夫やさまざまな素材集めの方法について関心をもち、書く楽しさを味わうことができた。

② 書き方トレーニングや思考ツールを用いて学習することを通して、生徒は書き方の工夫の仕方や素材集めの方法を身に付けることができた。

(2) 研究の課題

① 書き方や素材集めの方法をより確かに身に付けさせるために、指導内容の工夫や時間の確保に努める必要がある。

② 思考ツールを、より効果的に活用させるためのさらなる指導の改善が必要である。

③ 「書く方法を学習した」という意識を「書く意欲」につなげる手立てについて、今後さらに研究を深め、「豊かに書く」ことにつなげていく必要がある。